

新評論

2025
9・10
No.351

発行所 © 新評論 2025年
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28
TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832
http://www.shinhyoron.co.jp
e-mail: shrn@shinhyoron.co.jp
振替 00160-1-113487 価格税込

エコロジー階級の
登場についての
覚書

この新しい階級概念は、私たち一人ひとりの明日の姿を描いている。
人間を大地につなぎ直す大いなる反転。万人の新たな政治参加モデル

エコロジー階級の 登場についての覚書

ブルーノ・ラトゥール+ニコライ・シュルツ
川村久美子 訳・解題

◆ジャンル：エコロジー政治・文明論

本書書影

近代化の進行によって人類活動は加速度的に増大し、私たちは人間活動の痕跡が地質に明確に残る時代、「人新世」に到達した。いまや人間の生産システムは破壊システムの様相を呈し、甚大な気候危機を招いている。ところが、多くの人々は未曾有の危機が迫る中、無関心、麻痺状態に陥ったままだ。親が子に「居住可能な世界」を残すこともままならなくなつた文明を、未だに「合理主義的」と見なしている。

本書はそんな私たちに、「近代化」を早急に脱して「エコロジー化」を目指すべきだと説く。ただエコロジー化への移行は容易ではない。著者らはその原因を、近代人に特有の自然観、「自然は外部的で遠くから把握が可能なもの」、人間社会とは無関係に存在するもの」という見方にあると分析する。その自然観ゆえに、近代人は虚構の居住世界に迷い込んでしまう。彼らにとって、居住する大地も帰属する国家も市場経済も、すべてがこの自然観（近代の認識論）に支配された抽象的存在なのである。自然を資源とみなし「無限の生産」を目指すことができるのもそのせいだ。ところが、いまや人類活動は地球の「環境容量」を遥かに超えるところまで来てしまった。そしてそこに、「終わりなき侵略戦争」が覆い被さっている。

著者らが「エコロジー化」への第一歩として挙げるのがエコロジー階級の政治的育成である。ただしそれは、マルクスやエリアスがあげたような伝統的社會階級ではなく、生き物の生存条件の維持に最大の価値を置く「地・社会階級」である。著者らはエコロジー運動を社会運動に効果的に繋げるべきだとするが、そこに重大な要件を一つ設ける。近代の自然観を排し、新たな自然観をとることだ。そこでの自然とは「クリティカルゾーン」（生き物が誕生以来、何十億年という年月をかけて地上に創出し、維持してきた地球の表層数キロの薄膜）のことをいう。私たちが目指すべきは「生産」ではなく、クリティカルゾーンの「居住可能性条件」の維持、拡大、修繕を図ることだと本書は結論づける。

（かわむら・くみこ）環境社会学・科学社会学

ISBN978-4-7918-1292-6 10月刊
四六上製 一九二頁 予二四二〇円

ブルーノ・ラトゥールの本（訳改題：川村久美子）
虚構の「近代」

好評刊

地球に降り立つ

ガイアに向き合う

私たちはどこにいるのか

8刷 三三〇円
2刷 二四〇円
五九四〇円

科学人類学は警告する

新気候体制を生きるための八つのレクチャー
二四〇〇円

著者 Bruno LATOUR (1947-2022) フランスの人類学者・哲学者。科学人類学の立場からの近代文明批判を展開し、その後、自ら「新気候体制」と名づける今日の政治哲学的問題を研究してきた。
Nikolaj SCHULTZ (1990-) デンマークの社会学者。現在、気候変動が社会理論に与える影響について研究中。

形式的な話し合い・発表型授業を脱し、真に「主体的・対話的で深い学び」を実現するための支援・促進型指導を具体的に詳説！

ファシリテーション型生徒指導

対話が生みだす学びの共同体

参画の段階

参画の段階

ニューヨーク州立
大学教授ロジャー・
ハートが概念
化した「子どもの
参画の8段階」を
示す階段図

山中信幸

◆ジャンル：教育

二〇一六年の中央教育審議会答申において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に向けて、集団の中での個人に着目した指導や子ども同士の学びあい、多様な他者とともに問題の発見や解決に挑む協働的な学びの実現が求められました。しかし実際には、とりあえず話し合いや発表の時間を授業に取り入れるという形式化・形骸化の事例が多く見られ、求められている「深い学び」につながる授業改善になっているとは思えません。

筆者は、本質的な授業改善の鍵は、教師と子どもの「関係性の再構築」にあると考えています。だからこそ、教師の指導のあり方を問い直し、「指導する者」から「支援する者」へ、「管理する者」から「ファシリテーター」へとパラダイムシフトすることが喫緊の課題であると捉えています。「ファシリテーター」としての教師とは、「学習者が表明するニーズに応えて、学習者の成長と変化を促し、支える」役割を担う者です。そして、ファシリテーターとして生徒指導にあ

たるということは、子どもたちの主体性を重んじ、人格の尊厳を損なうことなく、真摯に向きあうということです。教師が子どもたちの可能性を信じ、失敗を恐れずにチャレンジできる環境をつくらば、子どもたちの成長を支援できるのです。特別活動は、このような理念に基づいた生徒指導を実現する絶好の場です。学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事——これらは本来、子どもたちが主体的に参加し、民主的な意思決定や協働的な問題解決を体験する機会に満ちています。本書では「マインドフルネスの実践」、「感情コントロール」、「自己効力感の向上」などのキーワードで、この機会を活用するための具体的で実践可能な方法を示し、特別活動を通して生徒指導のあり方を見つめ直せるよう試みました。子どもたちが自分らしく輝ける学校づくりを目指す、すべての教育者に読んでいただければと思います。

(やまなか・のぶゆき)

ISBN978-4-7948-1298-8 9月下旬刊

四六並製 二六八頁 予二七五〇円

著者 中学・高等学校勤務を経て川崎医療福祉大学教授。専門は開発教育・教師教育学。現在は複数の大学の非常勤講師の他、社会教育士、開発教育ファシリテーターとして授業づくり、伝え方・問い方、人権教育などの研修講師を務める。

地方財政調整制度史

総額決定方法と配分方法

中村 稔彦

20年にわたる徹底調査と分析

これまで解明されていなかった

各制度内容の経緯や運営実態の全貌解明に迫る!

書影

戦前・戦後期から現行の地方交付税制度に至る歴史と各時期の運営実態を精緻に解明、制度改革の方向性をめぐる議論を喚起

地方財政調整制度史

総額決定方法と配分方法

中村稔彦

◆ジャンル：財政学／地方財政論／経済史

本書は、萌芽期の財政補給金制度にはじまり、配付税制度、地方財政平衡交付金制度を経て現行の地方交付税制度へと展開していくわが国の地方財政調整制度史において、これまで解明されていなかった制度内容の詳細や運営実態を総額決定方法と配分方法とに分けて明らかにしたうえで、当該制度の性格や機能、歴史上の位置づけを確認し、ひいては、これらからの示唆を参考に地方交付税制度改革に向けた提言を試みるものである。

本書の研究対象となっている戦前から戦後期にかけてのわが国の地方財政調整制度の総額決定方法や配分方法について、これまで制度内容の詳細や運営実態が解明されなかった最大の要因は、当時の資料がほとんど残っていないことにある。また、戦前から戦後期にかけては、現在ほど統計資料が整理・完備されていなかったこともその一つの要因として挙げることができる。研究者がほとんどいないのも、これらに起因している。

分析にあたっては、各大学図書館、国立国会図書館、国立公文書館、東京都図書館、地方自治総合研究所図書館、東京

市政調査会（現、後藤・安田記念東京都市研究所）図書館はもとより、財務省図書館、財務省総合政策研究所、総務省図書館、自治大学校図書館、市町村アカデミー図書館で収集した様々な文献・資料に加え、帝国議会会議録、国会会議録、各時期に制度運営などに関わった内務官僚や大蔵官僚の口述資料をも用いた。これにより、制度内容や運営実態の全貌解明にかなり近づいたといえる。

本書が、わが国の地方財政調整制度の総額決定方法、配分方法の本来はもちろん、実際の運営方法の理解につながり、「正しい制度運営とはどうあるべきなのか」、「地方交付税制度は今後どうあるべきなのか」といった議論を喚起する一助になればと願っている。

(なかむら・としひこ)

ISBN978-4-7918-1297-1

6月初旬刊

A5上製 四〇四頁 六三八〇円

刊 攻める自治体「東川町」

評 (地域活性化の実践モデル)
好 中村稔彦

一九八〇円

著者 長野県立大学グローバルマネジメント学部准教授。専門は財政学、地方財政論、公共政策。著書に『攻める自治体「東川町」——地域活性化の実践モデル』（新評論、2022年）、共著書に『信州に学ぶ地域イノベーション』（中央経済社、2023年）がある。

答えのない教室

パート2

池田吉久

〔流山市立おおぐろの森中学校での教育実践〕
「考える力」を育み、子ども達をワクワクさせる授業の全貌。

四六並製 二二〇頁 二四二〇円



なんで学校は変なの？

津久井聖志

〔教員の父親に教育実習生の娘がストリートな質問！〕 学校のおかしさの本質に迫りつつ解決策を模索する。

四六並製 二二〇頁 二四二〇円



（増補改訂版）ノンフォーマル教育の可能性

太田美幸・丸山英樹編著

〔リアルな生活に根ざす教育へ〕 既存の教育観を超えた「別様の教育」の可能性を追求する試み。待望の増補改訂。

四六並製 三四〇頁 三三〇〇円



大学での学びをハックする

ザカリー・シヨア／佐藤賢一訳

〔21世紀のアカデミックスキル短期集中セミナー〕 五つのスキルがあなたを変え。全ての学生・研究者必読の書！

四六並製 二四八頁 二六四〇円



七十二候の保育物語

宮武貴子・光橋翠編

〔バイオニアキッズが拓く持続可能な未来〕 「子育て」は自然とともに！ 野外活動を基本とする保育実践。

四六並製 三三六頁 二七五〇円



大作物語

磯村元信編

〔「家がしんどい」子どもたちを支える社会的養護のリアル〕 貧困と孤立が広がる社会に「寄り添うこと」の意味を問う。

四六並製 二四〇頁 二四二〇円



ちよつと自慢できる京都の話

勝又郁子

〔「平安京創生館」で知る都〕 二〇〇年の古都に平安京の姿を追求め、その魅力に移住者目線で綴る。

四六並製 二四四頁＋別冊四頁 二四二〇円



マルグリット・デュラス その愛の行方

佐藤浩子

失われゆく過去、内なる闇、狂おしい愛。没後30年を迎える世界的作家の創作の源泉に迫る本格文学研究。

四六並製 三三〇頁＋別冊四頁 三〇八〇円



「読売新聞」書評
ISBN978-4-7948-1294-0



ラーゴムが描く社会
鈴木賢志
「スウェーデンの「ちょうどよい」国づくり」何ごとにつけ「ほどほど」をよしとする哲学の奥深さに学ぶ。
四六並製 二二四頁 二四二〇円

「クーヨン」他紹介
ISBN978-4-7948-1282-7



ジェンダー平等のまちをつくる
太田美幸編
「東京都国立市の挑戦」「誰も排除しない社会」をつくるために取り組んだ施策の舞台裏を描く。
四六並製 二〇八頁 二四二〇円

好評刊
ISBN978-4-7948-1281-0



離島の光と影
波名城翔
「シマ」の観光と自殺 観光ブームに湧く離島を対象に、自殺予防対策の実態をインタビュー形式で紹介。
四六並製 二八〇頁 三〇八〇円

「ニューズウィーク日本版」紹介
ISBN978-4-7948-1276-6



山谷をめぐる旅
織田忍
訪問看護師として働きながら、この街の「生き死に」を見つめ続けてきた著者による同時代の記録。写真約120点収録。
四六並製 二七二頁 二六四〇円

好評刊
ISBN978-4-7948-1288-9



現代社会用語集
入江公康
世界／社会への解像度を上げ、明日に備えたい若者のバイブル、「戦争」など重要項目を加えた最新版！
四六変並製 二四〇頁 一八七〇円

好評刊
ISBN978-4-7948-1280-3



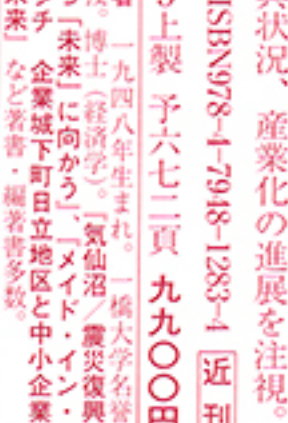
比較福祉社会学の展開
西下彰俊編著
「ケアとジェンダーの視点から」国家・地域の福祉性をケアとジェンダーの視点から読み解く意欲作。
A5並製 二五六頁 三〇八〇円

「山梨日日新聞」紹介
ISBN978-4-7948-1290-2



経済学と経済政策
石水喜夫
「戦後日本、その歩みの価値を求めて」戦後の起点を成すケインズ理論と現代憲法の今日的意義に迫る。
四六上製 三五〇頁 三八五〇円

「山梨日日新聞」紹介
ISBN978-4-7948-1283-4



福島県浪江町
関満博
原発被災を超えて新たな「まち」をつくる
震災14年、多重・複合災害により苦難を強いられ続ける住民の思いは今どこにあるのか。浪江町の歴史と現在を受け止めつつ、背景・復興状況、産業化の進展を注視。
A5上製 予六七二頁 九九〇〇円

佐藤 亨 『アイルランドから東北へ——周縁と漂着の詩学』

共鳴する歴史や伝承

アイルランドの歴史について、私たちはどれだけ知っているだろうか。プロテスタントとカトリックの対立、北アイルランドを巡る紛争など複雑な歴史をたどり、今なお多くの悲しみが横たわっている。

同国の研究を続ける著者は、一関市出身で青山学院大教授。2018〜23年に日本アイルランド協会長を務めた。「アイルランドなしに東北を再発見することはなかった」と話すように、論考する歴史や伝承の多くは東北と共鳴する。

第1章は著者の郷里にある「鬼死骸^{おにしかい}」という地名と伝承か

ら始まる。大軍勢が陸奥国へ攻め入り、蝦夷の一族は鬼となり果敢に戦ったが、族長は首をはねられ死骸は大石で覆われた。

朝廷と蝦夷（征伐する側とされる側）の伝承は各地に残る。北アイルランドの都市ベルファストには、「歴史は勝者によって書かれる」と抵抗の意思を示す壁絵がある。同国もまた、侵入者や入植者との争いの歴史であった。

文学にも両地の共通点を見いだす。北アイルランド出身の詩人シェイマス・ヒーニーは、もともとの土地言語がありな

『岩手日報』2025年7月27日

が英語で自らのことを書くという「文化的二重性」を背負った。

パロール（ルーツの言語）と、ラング（標準語・共通語）が「交配」し生まれる作品世界。それは、津軽出身の作家太宰治や山形出身の詩人黒田喜夫^{おが}にも当てはまると指摘する。

民間伝承の比較も興味深い。同国には妖精が新生児を取り換えたりさらったりする「とりかえっ子」「さらわれっ子」という言い伝えがある。かつて病弱に生まれた子を間引きした残酷な現実を、妖精のせいにして生まれたとされる。農村の貧

しさゆえの自己正当化や現実逃避といった悲しい深層を、著者は柳田国男の「遠野物語」にも見る。

このほか、内戦のあったボスニア・ヘルツェゴビナ、在日コリアンの詩なども取り上げる。アイルランドと東北の歴史、ひいては生まれた土地への帰属に、深い視座を与えてくれる。

アイルランドから東北へ

佐藤 亨

（周縁と漂着の詩学）文学・民俗・歴史をよすがに、詩学的世界と現実世界を横断する故郷論。四六上製 三三〇頁 三九六〇円

好評刊

ISBN978-4-7948-1287-2



本を売る

「売る」とは言っていない。
多分。

「売る」という言葉があまり好きじゃない。もちろん私は売っている。本を。ちゃんとレジで会計して、袋に入れて、「ありがとうございます」と頭を下げる。だから、どう考えても「売って」いる。でも、「売っています」と口に出すと、なんだか自分の声がひとつ上ずるような気がして、あとで少しだけ反省する。そんなつもりじゃなかったのについて、自分に言い訳するような気持ちになる。

たいてい私は、ただ本を並べている。表紙がきちんと見えるように整えて、背をそろえて、見やすい高さに調整する。ほこりが溜まりそうなら、「失礼します」と心の中で断りながらクイックルワイパーをバタバタさせる。POPを書くとときは、自分の感想というより、その本が言いたがっていることを代筆している気がする。伝言ゲームのグループの一員みたいな感覚。誰かの言葉を、次の誰かにどう渡すか。それをずっと考えている。

ある日、「売ってなんだったの」

と思いつながら平台を整えていたら、ふと「あ、私は、見守っているのかも」と思った。誰かが本を手に取る、その一瞬。目の動きと指先の角度。その数秒の動きに、私はよく目を奪われる。迷っているふりをしながら心は決まっている手。偶然を装いながらも、一冊を追っている視線。棚の前に立ち尽くす人は、「忘れたことを思い出そう」としている。ふりで、たぶん選んでいる。まだ選ぶ理由に言葉が追いついていないだけで。

買われるかどうかよりも、その動きのほうがつつと面白い。本はきつと、まだ売れていないその一瞬に、いちばん「売れて」いる。選ばれる前の、小さなゆらぎの中に、本の魅力が凝縮されている気がする。

やっぱり「売る」って言葉は、私の中ではしっくりこない。「売る」じゃなくて、「本をその人の生活に忍び込ませる仕事」。ちよつとストーリーっぽいけれど、だいたいそんな感じ。気づけばそばにいて、ふとした瞬間に必要なになるような、そんなかたちで。

三省堂書店アトレ上野店

石井淡紅子

本誌表示価格はすべて税込です。

書評日誌(3・1~4・1)

◎書評 ◎紹介 ◎関連記事

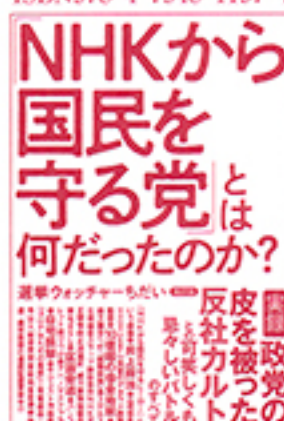
- 2 月 ◎コスモス新聞『山谷をめぐる旅』
- 3・1 ◎日刊ゲンダイ『「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?』(著者寄稿①)
◎イコール05号『日本のアタリマエを変える学校たち』(著者談)『カンボジア自転車プロジェクト』(著者インタビュー)
- 3・5 ◎ふえみん『ジェンダー平等のまちをつくる』(石原みき子)
- 3・10 ◎日刊ゲンダイ『「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?』(著者寄稿②)
- 3・17 ◎日刊ゲンダイ『「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?』(著者寄稿③)
- 3・25 ◎FRIDAY DIGITAL『「NHK

から国民を守る党」とは何だったのか?』

3 月 ◎広報ふくつ(福津市)『自殺者を減らす!』

4・1 ◎2025教員おすすめ図書(城西大学水田記念図書館)『「昔はよかった」と言うけれど』(真殿仁美)

電子書籍も好評発売中
ISBN978-4-7948-1197-4



「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?
選挙ウオッチャーちだいの必読書

兵庫県政崩壊でその反社ぶりが加速する今、デマや「選挙ハック」に踊らされないための必読書。

四六並製 二六〇頁 一六五〇円

本を読む

アイランドから東北へ■
中央の文壇ではない「周縁」に目を凝らし、著者の専門であるアイランド文学と故郷東北の伝承を重ね合わせた好著です。最後の二章は在日コリアン文学と旧植民地満州の記憶に割かれています。記述をじっくり味わいながら、一日一章ずつ読んでいきました。アイランドの妖精と東北のザシキワラシ伝承との関連性など、比較文学的考察がとて興味深かったです。(奈良市 大学教育 金子昭 64歳)

大作物語

誰かに支えられた人が誰かを支える人になっていく。人間関係とは、天から恵まれるものではないのだなあと思いました。5月4日に八王子で開催された本書のトークイベントで伺った大作さんのお話は、ユーモアがあつて大変面白かったです！(相模原市 会社員 木村健一 55歳)

SELを成功に導くための

五つの要素

前半は「チーム学校」で生徒指導にあたるという日本の学校づくりと似ている部分があると感じま

した。後半の授業づくりやアクティビティーの部分は、生徒指導だけでなく職員の研修にも使えるのではないと思われる点もあり、参考になりました。「エンゲージ・ティーチング・ツリー」による計画書も、学級経営の計画を立てるのに役立ちました。SELを少しでも自分の教育実践に取り入れたいと思っています。(香取郡 教員 小山茂雄 65歳)

好評刊

SELを成功に導くための五つの要素

〔先生と生徒のためのアクティビティ集〕
L・ウィーヴァー&M・ワイルディング／
高見佐知・内藤 翠・吉田新一郎 訳
11100円

殺戮の世紀 1914-2014

〔世界を変えた20の戦争〕 四九五〇円
E・エシュト&P・セルヴァン 監修／義江真木子 訳

「兵六」(風を感じる)だわりの居酒屋

柴山雅都 11100円

ヴィンデビー・パズル

ロイス・ローリー／島津やよい 訳 114100円

さいごのさよなら

E・ケルシー(文)／S・キム(絵)／光橋 翠 訳
17600円

編集部から

世界の熱帯化が止まらない。なかでも日本は猛暑+豪雨+厳寒+豪雪の「四季化」が急速に進みつつあり、「われわれは不可逆ラインぎりぎりの地点にいる」と警鐘を鳴らす気象学者も。もはや一刻の猶予もない、ラトウール気候理論の集大成「エコロジイ階級の登場についての覚書」を読んで今すぐ「地・社会階級」を構成しよう！

▼去る七月(知泉源氏 完訳漫画「源氏物語」の作者、杉村喜光氏が逝去されました。シリーズ第II期刊行開始に向けて「第十七帖 絵合」以降の原稿執筆に邁進されていた中で、突然の訃報でした。前人未踏の計画に挑まれた志の高さを改めて仰ぎ見つつ、ご冥福をお祈りいたします。続刊を楽しみにしていただいていた読者のみなさまには、全IV期30巻の予定が既刊第I期全6巻で終了いたしますことをお詫びとともに、ご報告申し上げます。

営業部から

▼直近3ヶ月(2025年4月・6月)弊社のアマゾン売上ベスト15をご紹介します。

- ① 大学での学びをハックする
- ② 感情と社会性を育む学び(SEL)
- ③ たった一つを変えるだけ
- ④ 答えのない教室
- ⑤ 学びは、すべてSEL
- ⑥ 学校では学べない数学的思考
- ⑦ 山谷をめぐる旅
- ⑧ アエネーイス
- ⑨ SELを成功に導くための五つの要素
- ⑩ プロジェクト学習とは
- ⑪ 虚構の「近代」
- ⑫ 「NHKから国民を守る党」とは何だったのか？
- ⑬ 比較福祉社会学の展開
- ⑭ 新装版 ガブリエル・フォール
- ⑮ 開発との遭遇

SBC(新評論ブッククラブ)のご案内

会員は送料無料！各種特典あり！お申し込みを！

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的に送付しております。入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくことで、全商品の中からご希望の本を1冊無料進呈する特典もございます。ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メール、またはハガキにて、お名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。